

少人数学級の更なる拡充を求める意見書

未来を担う子どもたちが、夢や希望を持ち、健やかに成長していくことは、すべての国民の切なる願いである。

しかるに、今般の新型コロナウイルス感染症拡大は、今を生きる子どもたちに大きな負担を強いているだけでなく、その将来に計り知れない負の影響を与える可能性がある。

また、近年の少子化傾向の中で、特別な支援を要する子どもや、日本語指導が必要な子どもも増え続けており、いじめや不登校も依然として大きな社会問題となっている。

さらに新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校現場では学びの保障や心のケア、感染症対策なども加わり、教職員を取り巻く環境は極めて厳しいものがある。

少人数学級は、教室にゆとりが生じることにより、感染症の予防になることはもとより、児童生徒一人ひとりに目が行き届き、個に応じたきめ細やかな学習指導が行える。また、発言・発表など、子ども一人ひとりの活躍の場が増加し、高い教育効果が期待できる。

よって、国においては、子どもたちが、住む地域や環境に関係なく平等にきめ細やかな教育を受けられるようにするため、下記の事項を実施されるよう強く求める。

記

- ・「少人数学級」の更なる拡充に向けて、小学校第1学年から中学校第3学年の学級編制の標準を順次改定するとともに、計画的な教職員定数改善を実現するための予算を措置すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和2年12月22日

岐阜県可児市議会

提出先

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、文部科学大臣、内閣官房長官